巻　頭　言

（公財）日本義肢装具士協会　東日本支部研修副委員長
株式会社幸和義肢研究所
荒井　孝明

令和７年７月より東日本支部研修副委員長を務めております、株式会社幸和義肢研究所の荒井孝明と申します。この度は執筆の機会を頂戴し、誠に光栄に存じます。

ちょうど卒後10年の節目を迎えたこともあり、本稿ではこれまでの歩みを振り返るとともに、今後の展望について述べさせていただきます。

私は高校３年生の頃、診療放射線技師を志しておりました。しかし思い通りには進まず、進路指導の先生より人間総合科学大学の義肢装具学専攻を勧められたことを契機に、初めて義肢装具士という職業を知り、進学を決意いたしました。

入学後は、製作室や電動のこぎり、ボール盤といった環境に戸惑い、当初抱いていた医療職のイメージとの違いに驚いたことを今でも覚えております。私は、早稲田医療技術専門学校が人間総合科学大学として開校したタイミングで入学した１期生でした。ものづくりの経験がほとんどなかった私は実習に適応できず、１年次前期の基礎工作実習の試験で留年を経験しました。翌年の試験では無事に合格し、その後は４年間で卒業することができました。これはひとえに栗山先生、坂井先生、大塚先生、吉田先生、富永先生、朝倉先生のご指導の賜物であり、また１期生・２期生の仲間の存在が大きな支えとなりました。ここに改めて深く感謝申し上げます。

卒業後は地元である茨城県で働きたいという思いから、株式会社幸和義肢研究所に就職し、現在に至っております。臨床では整形外科領域およびリハビリテーション科領域（主に脳卒中）に携わっております。各分野でご高名な医師の先生方とご一緒する機会に恵まれ、教科書では得られない症例や、仕事に対する姿勢・情熱を学ぶことができました。

こうした経験を通じて、臨床で生じる疑問を研究によって解決する重要性を強く認識し、新潟医療福祉大学大学院修士課程へ進学いたしました。臨床業務と並行して学業に取り組む中で、多くの学びを得ることができました。村山先生のご指導のもと、長下肢装具に関するスコーピングレビュー研究に取り組み、研究の基礎を身につけることができました。最終的に修士号（保健学）を取得できたことは、非常に貴重な経験となりました。今後は、臨床・教育・研究の三本柱を軸に、さらなる研鑽を積んでまいります。

臨床においては、採型および適合技術の向上に継続して取り組むとともに、採型時や納品後の評価の充実を図っていきたいと考えております。より質の高い義肢装具の提供を通じて、患者様の生活の質の向上に貢献してまいります。

教育においては、これまでの臨床経験を活かし、後輩への指導および育成に尽力いたします。後輩にとって「相談しやすい存在」になり、後輩義肢装具士たちが最大限、力を発揮しやすくなるように努めそれを通して、幸和義肢研究所の発展にも寄与していきたいと考えております。

研究においては、臨床と並行しながら、義肢装具の効果を機能面やADL、QOLの観点から明らかにするアウトカム研究に取り組んでまいります。現状では経験や臨床的判断に基づく評価が中心であり、その効果を十分にエビデンスとして示しきれていない点に課題を感じております。今後は客観的指標に基づいた研究を推進し、その成果を臨床へ還元することで、義肢装具の価値をより明確に示していきたいと考えております。

卒後10年という節目にあたり、これまで支えてくださった多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、今後も一歩一歩着実に成長してまいります。また、東日本支部研修副委員長としての責務を自覚し、研修委員会の活動を通じて日本義肢装具士協会の発展に貢献していく所存です。